

日本学術会議
東日本大震災に係る学術調査検討委員会（第23期・第3回）
議事要旨

日 時：平成27年7月7日（火） 13:00～15:00

場 所：日本学術会議5階 5-C（1）会議室

出席者：岩澤委員長、山川幹事、目黒幹事、岡田委員、佐藤委員、廣瀬委員、山本委員、
渡部委員、大久保委員、矢川委員 10名

欠席者：福田副委員長、向井委員、山下委員、和田委員 4名

オブザーバー：永井善一国会図書館電子情報部電子情報流通課課長

事務局：盛田参事官、松宮補佐、熊谷専門職付、辻上席学術調査員

配布資料：資料1 前回議事要旨（案）

資料2 調査の基本方針の再確認と調査項目の検討（佐藤委員）

資料3 予備調査票（提出物）

参考1 委員名簿

参考2 今後の日程について

議事：

1）前回議事要旨（案）の確認

資料1に基づいて、前回議事要旨（案）が確認され、了承された。

2）アンケート調査の基本方針の再確認と調査項目の検討

2）－1 基本方針の再確認・検討

資料2及び資料3に基づいて、佐藤委員より説明が行われ、調査の基本方針の再確認・検討が行われた。

【再確認・決定事項】

○調査目的：

今後起ると予想される次の大災害前および大災害後において、政府・自治体等が取りうる/取るべき対策、制度設計、予算措置、政策・施策、学術会議や学協会との連携、研究者との連携等の判断等に資する資料となることに貢献することが目的。そのため、東日本大震災関係で実施された調査研究に関するアンケートの集計を通して、目的、調査研究の時期、場所（空間）、対象者、リソース（予算、人員）、見えた問題点・要望等を立体的に明らかにし、提言/報告書として表出する。

○調査対象：

本アンケートにおいては、「学術調査活動」という言葉ではなく、分野間での相違を無くし広く捉えるため「学術調査・研究活動」という言葉を用いることとした。得たい情報は、「プロジェクト単位」の情報であるが、個人から得られたプロジェクト情報が重複する場合については、アンケート回収後に整理することとした。

○調査対象者（調査票送付先）：

第21期・第22期・第23期（震災発生時から現在まで）の会員及び連携会員（特任連携会員を含む）とし、その他関連研究者は、あらかじめ本委員会委員や関連学協会等からの情報をもとに対象者リストを作成し事務局で集約することとした。これに、会員・連携会員の情報と合わせて調査台帳を作成することとした。調査対象者への調査票送付は、事務局から一括して行うこととした。

なお、調査の進展に応じ、柔軟にその他関連研究者を追加し対象とすることとした。

○収集するデータの性質／結果とりまとめのイメージ：

定量データの集計が中心であり、必要に応じて、提言/報告書のとりまとめのために、今後の災害対策を考えた際の課題や求められる対策等、各分野別の状況がわかるように自由記述欄を設けることとした。全分野の調査・研究活動の定量データの集計は提言/報告書の重要な基礎資料となり、一方で定量データや自由記述欄等を参考に提言/報告書として取りまとめる。調査票送付に先立ち全委員がアンケート分析まとめの分野別分担を決めることとした。

○スケジュールの再確認：

2015年秋に調査を実施し、年内に回収し、2016年3月には内部向けの目次案と単純集計を中心とした中間報告の取りまとめを行う。さらに2016年9月をめどに報告書（あるいは提言）をとりまとめることとした（10月初旬の総会に提出報告）。

○ワーキンググループ：

調査準備のためのワーキンググループ（WG）の設置が佐藤委員から提案され、了承された。メンバーは、各部より1名以上とすることとし、廣瀬委員、山下委員、和田委員が推薦された。これに佐藤委員を加えた、計4名をWGメンバー（委員会後、山下委員、和田委員からも快諾を得た）とした。

【議論・意見】

○類似のメタ調査：

- ・海外で類似の調査のメタ調査はあるか。
- IAEAや国連などで原発災害に関する類似調査がある。

○東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会、JSPS等への協力依頼：

- ・東日本大震災を受けて、巨大災害から生命と国土を護るため、30学会が集まり連続シンポジウムを行っている。それぞれの学会長と幹事に連絡をすれば、それぞれアンケートの対象者を推薦してもらえるのではないか。
- ・村松岐夫先生のJSPS「東日本大震災学術調査」のメンバーにも協力依頼をするとよい。

○提言について：

- ・メタ解析を行い全体像を明らかにすることと、提言にすることの間にはもう一段必要なのではないか。
- 状況は分野ごとに大きく異なると思う。集計データや記述回答に加え担当委員の考えを

入れて問題点、対策等をまとめてもらいたい、すべての分野でそこまでする必要はないかもしれない。個別の研究プロジェクトで明らかになった問題そのものではなく、多くの研究プロジェクトを俯瞰した形で明らかになったことが提言となると思われる。

→自分の実施した調査ということから一步引いた形で、「世の中のために」という目で回答してもらえば、それなりに重要な回答が得られるのではないかな。

○その他：

- ・回答者が主張したいことと、こちらが聞きたいこと、の両方がまとめられるように記述回答設問したらどうか。

2) - 2 調査項目

資料2及び資料3に基づいて、佐藤委員より説明が行われ、調査項目の検討が行われた。主な意見等は次の通り。

【議論・意見】

○調査目的：

- ・「調査目的」の選択肢を作る際のアイデアはあるか。

→キーワードを複数あげてもらい、抽出するというやり方があるのではないかな。

○用語の使い方（ワーディング）：

- ・「調査対象」、「調査規模（データ数等）」という言葉がぴんと来ない。わからない項目について最初の方で聞かれると、回答意欲が低下するのではないかな。
- ・「主な調査結果」という聞き方だと、進行中の調査研究の場合に記載しにくいので工夫が必要ではないかな。

○研究分野：

- ・「研究分野」には、複合分野を入れたほうが良いのではないかな。

3) 今後の進め方と日程について

【今後の予定】

次回委員会（7月23日）までに、佐藤WGで、本日の議論を踏まえたアンケートのたたき台を作成することとした。可能ならば、事前に委員に送付することとした。次回委員会の後、WG等で精査し、次回委員会（9月11日）を目途にひな形を作成することとした。予定されていた8月24日委員会はWGからの必要に応じてメール連絡会議とすることにした。

調査の実施（調査票を送付）は秋以降とした。2016年3月をめどに単純集計の取りまとめを行い、2016年9月ごろをめどに報告書（あるいは提言）をとりまとめることとした。報告書（あるいは提言）とりまとめに当たっては、各委員に分担してもらうこととした。

適宜国会図書館にもコミットしてもらうよう今後相談することとした。

また、学術調査員に何を依頼するか等を含め、次回委員会で相談することとした。

次回以降の委員会開催予定は次の通り。

- ・ 第4回予定日 7月23日（木）10：00～12：00

- ・ 第5回予定日 9月11日（金）10：00～12：00

※当初委員会を予定していた8月24日（月）15：00～17：00については、中止。

以上